

子どもの頃、ターザンになりたかった。

生まれ育ったのは、九州は大分県。自然豊かなのんびりとした田舎だ。本物のターザンがいても不思議でない密林がふんだんにあった。大木に絡みついたツタが、（さあ、ターザンごっこをやるうぜー！）と手招きしていた。子供たち、誰もがただちに、ターザンになった。ツタのロープで、木から木へと飛び移る。「あゝあゝ！」声変わり前の、甲高い雄たけびが、我らのジャングルにこだまする。毛皮代わりに、クヌギの葉を巻きつけた。おやつは、そこらに実っているグミやアケビだ。夏には、川に飛び込み、魚も採った。

そう、あの頃に、将来について尋ねられたとしたら、きつと、こう答えたに違いない。「大きくなったら、ターザンになります！」
そういえば、運動会が好きだった。小学校の運動会前夜には、興奮して鼻血を出した。遠足も好きだった。前日、これも興奮し過ぎて、必ず熱を出した。

とにかく身体を動かすことに夢中だった。

今でも、スポーツが大好きで、マイナースポーツも含め、たいがいのスポーツは見ている。おまけに自分が参加するのが、さらに楽しい。楽しくて、周りのみんなにもやらせたい。

さあ、これから、ターザンにな

りそこねた石丸謙二郎が、いろんなスポーツの楽しさをお伝えしようと思います。また、来週。

【朝日新聞・マリオン】

2006年10月4日掲載